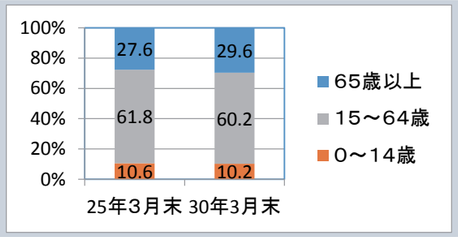
桜小地区福祉委員会　第４次地区福祉計画

地区の特徴

桜小地区は、市の中心地に位置し市役所をはじめ阪急電車やＪＲ川西池田駅にも近く、また小店舗から大型の商業施設や病院もあり生活をするにはとても便利な地域です。世帯数は約４，２００世帯、人口は約８，２００人。６５歳以上の高齢化率は２９．１％となっています。自治会加入率は、平成２９年３月３１日現在で２５．６％と、市内で最も低く、背景には、自治会が組織されていないマンションが多いことも要因と言えます。１６の自治会で構成される本地区において、親睦活動などが活発な自治会は全体の２割程度と少なく、住民自治の基盤と言える自治会活動が低調と言えます。桜小コミュニティ推進協議会は、平成２７年１１月に設立されましたが、市の調査によれば、地域社会とかかわりを持って充実した生活をしている人の率が市内１６番目という結果も出ており、孤立の問題が懸念され、如何に校区全体でのつながりづくりをしていくかが課題です。

桜小地区の人口、世帯数、高齢化率推移

	平成２５年３月３１日現在	平成３０年３月３１日現在
● 人　口	８，９７２人	８，２０２人
● 世帯数	４，４６７世帯	４，２１０世帯
● 高齢化率	２７．６％	２９．６％



福祉目標

つながって　みんなでつくろう　安心と楽しいまち（桜小地区）

地区の重点事業

重点1　福祉活動人材の発掘・育成

重点2　「ボランティアさくら」の充実

重点3　自治会や近隣など小地域での見守り・声掛け・支え合い活動の推進

重点4　多様な人が集える場・つながる場の設定

重点5　既存・新規の会合・部会・自主グループでの３つの意味の付加・周知・実践

地区別ワークショップでの意見

◇子ども・高齢者・障がいを持つ人など集う場・居場所・つながる場・機会の必要性
◇子ども・一人暮らし高齢者等への声掛け・見守りの必要性。認知症の理解促進・予防活動
◇近隣住民によるゴミ出しなど生活支援の必要性

第３次地区福祉計画からの課題（25年度～29年度）

◇活動人材の発掘・後継者育成
◇多様な人が集う場、つながる場を設定
◇ボランティアの募集、増員を図る必要
◇自治会・コミュニティとも協働して身近な地域で声掛け、見守り支え合い活動の推進が必要

現在の地区の取り組み

○福祉ネットワーク会議　○カフェさくらの開催　○ふれあいサロンの開催　○フォークダンスの開催
○ふくし講座の開催　○地区ボランティアさくらの再生　○ふれあい秋祭りの開催　○一人暮らし高齢者の集い
○さくら苦楽部＝ワンコインパーティの開催　○「ふくしだより」の発行　○認知症予防活動
○障がいを持つ人の集い　○パソコン指導　○小学生・保育園児との交流

福祉ネットワーク会議

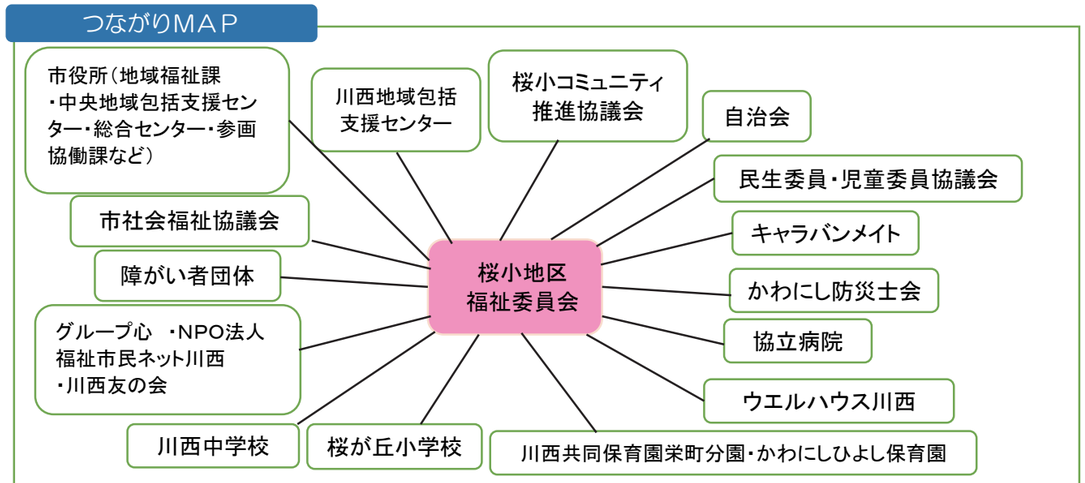
かわにしひよし保育園での”夕涼み会”

カフェ「さくら」

一人暮らし高齢者の集い

”傾聴の練習”ボランティア
さくらの会合風景

つながりMAP



① 地域交流室さくら
② 栄町自治会館
③ 市総合センター
④ 花屋敷会館
⑤ 花屋敷さくら会館
⑥ 東花会館
⑦ ふれあい会館
⑧ 市ふれあいプラザ
⑨ 桜が丘小学校
⑩ 桜小コミュニティ協議会会館
⑪ 心　家

地区内の主な地域活動拠点

桜小地区の自治会は以下のとおりです。

○栄町　○中央町共栄会
○あすなろ　○花栄　○山之下
○東花会　○山手花屋敷
○山手町　○花屋敷荘園
○新栄　○桜花　○新東花会
○花屋敷　○満願寺町
○かすみ ○中央

重点1 福祉活動人材の発掘・育成

目 的

平成２９年度の福祉委員総数は４５名。その内、役員が２０名。役員の平均年齢は７５歳を超えています。福祉委員をはじめ、ボランティアも活動できるメンバーは多くはありません。福祉委員会の維持継続し、発展をしていくためには福祉委員やボランティアを積極的に発掘し育成していく必要があります。

具体的取り組み

1．「カフェさくら」、「さくら苦楽部＝ワンコインパーティ」などの事業に参加される人の中から人材発掘を行う。

2．新規に立ち上げる「なかよしクラブ」で自主グループ活動を育て、参加メンバーに福祉委員やボランティア活動への参加を働きかける。

3．「ふくしだより」の発行時に福祉委員、ボランティアの募集を行う。

重点2 「ボランティアさくら」の充実（継続）

目 的

地域で単身、高齢世帯など何らかの支援を必要とする世帯が増加しています。親族や近隣の支援が得られない方等へ、できるだけ住み慣れたところで暮らし続けられるようゴミ出しや買物支援など軽易な生活上の支援を地区全体として取り組めるよう「ボランティアさくら」を充実させます。

具体的取り組み

1．「ボランティアさくら」の定例会を開催します。
①コーディネート機能の充実

2．ポスター・チラシ・ふくしだよりの作成・掲示・配布を行い「ボランティアさくら」のメンバー募集と利用を働きかける。
①「ボランティアさくら」のメンバー募集と利用を働きかけるポスター・チラシを作成し、随時掲示・配布する。
②日ごろの事業参加者に「ボランティアさくら」のＰＲと入会を働きかける。
③年2回発行する「ふくしだより」でボランティアの募集と利用をＰＲする。

3．ボランティア講座を開催します。

重点3 自治会や近隣など小地域での見守り・声掛け・支え合い活動の推進（継続）

目 的

地区内では少子高齢化、単身世帯、要支援者が増加し、孤立や生活への不安を抱えています。ちょっとした困りごとが発生した際に頼める親族や友人もなく、これまで住み慣れた地域で暮らし続けることが困難な世帯が増えると思われます。
安否確認やゴミ出し、買物支援など軽易な生活の支援を身近な地域の住民同士が取り組めるよう自治会や民生委員、福祉委員等の協働で推進を図ります。

具体的取り組み

1．小地域支え合いネット（仮称）検討委員会の立上げ

2．モデル地区の設置と具体的な取り組み

重点4 多様な人が集える場・つながる場の設定

目 的

桜小地区は、市内他地区に比べて自治会加入率が２５％台と極めて低いことさらに、自治会組織そのものがないマンションが多く住民同士のつながりや地域情報も入りにくくいわば孤立と背中合わせの地域とも言えます。若くて元気な間は良くても、年を取ったり何らかの支援を要する状況になった時に身近に手助けを頼める人がいない深刻な状況が予測されます。自治会が無いところの人も、校区全体で誰かとつながっていけるよう趣味の活動など自主的な活動の場づくりを支援していきます。

具体的取り組み

1．「なかよしクラブ」の立上げと具体的な自主活動グループを支援します。

①「コーラスグループ」（仮称）の立上げと支援。

②編み物・折り紙等趣味活動グループの会立上げと支援。

重点 5

既存・新規の会合・部会・自主グループでの３つの意味の付加、周知、実践

目 的

現在の地域の福祉活動は、多くが高齢者の頑張りに支えられています。当福祉委員会の役員２０名の平均年齢は７５歳を超えています。内、単身者は８名で全体の４割を占めています。

高齢になるということは、孤立したリ誰がいつ、体調を崩したり要援護の状態になり支援を必要とされるかも分からないということです。

一方で公的サービスは、財源不足、人材不足等により後退への道をたどっています。そうした中で、大切なことは、①自らの健康寿命を延ばすこと、②地域社会に積極的に参加し何らかの役割を担い生きがいをもつこと、③地域活動でつながった仲間と困った時にお互いに声掛け支え合う関係をつくっていくことです。つまり、”自助””互助”という人間が本来持っている力、関係性を回復することです。

現在福祉委員会が行っている活動、役員会や部会、自主グループ活動はまさに①と②の役割、意味を持っています。そこに、プラスして③の役割、意味を加味していくことで新たな互助組織をつくらなくても困った時の支え合いができるということです。住民の支え合い活動は、お互いが顔見知りでかつ、信頼関係があってこそできることです。今ある会合や活動、つながりの持つ”強み”を活かしていく。参加者が特に③の意味を意識化して仲間を気遣い、困った時にはお互いが声掛けたり支え合ったりできるようにしていきます。

福祉委員会への活動参加がこうした価値、メリットのあるものであると理解されれば福祉委員もこれまで以上に会活動にやりがいを感じ、住民も関心と参加が増えると思います。

具体的取り組み

健康寿命を高める・認知症の予防

地域・社会参加により役割・生きがいづくり

参加者・仲間同士の支え合い活動：互助

1．福祉委員会活動における3つの意味？

2．各種会議・部会・自主活動グループでの３つの意味の確認と意識づけ

3．各種会議・部会・自主活動グループの仲間同士の必要に応じた支え合い活動の実行

桜小地区　地区別ワークショップ及び検討会議

日　程	内　容
▷ 平成２９年　６月２２日（木）	ワークショップ　開催
▷ 平成２９年　８月３０日（水）	一人暮らし高齢者の集い（意見把握）
▷ 平成２９年　９月　１日（金）	９月度役員会　開催
▷ 平成２９年　９月２８日（木）	福祉ネットワーク会議
▷ 平成２９年１０月　６日（金）	１０月度役員会　開催
▷ 平成２９年１０月２６日（木）	ラウンドテーブル（市参画協働室）　開催
▷ 平成２９年１１月１０日（金）	１１月度役員会　開催
▷ 平成２９年１２月　１日（金）	１２月度役員会　開催
▷ 平成２９年１２月２１日（木）	福祉ネットワーク会議
▷ 平成３０年　１月　５日（金）	平成３０年１月度役員会　開催
▷ 平成３０年　２月　５日（金）	平成３０年２月度役員会　開催
▷ 平成３０年　２月２２日（木）	福祉ネットワーク会議

平成30年度現在

桜小地区福祉委員会事業一覧表

事業名	区分 新規・重点	内　容 内容、回数、定期開催の場合は曜日
カフェさくらの開催		毎月第2木曜日の12時～16時。コーヒー、菓子でおしゃべり。幼児から高齢者まで、障がいを持つ人も誰でもが気軽に参加できる居場所
ふれあいサロン		毎月第3水曜日の13時半～15時半。カラオケを楽しむ
童謡・唱歌をみんなで歌おう会		毎月第2金曜日の13時半～15時半。スクリーンにプロジェクターで映像を写し、みんなで童謡や唱歌を歌う会
フォークダンス		毎月第2水曜日の13時半～15時半。フォークダンスを楽しむ会
パソコン指導		毎月第2月曜日10時～12時。パソコンの分からない所を個別指導
ふくし講座		年間３～4回、「地域交流室さくら」で認知症や障がいを持つ人の理解、ボランティア活動などをテーマに講演会
さくら苦楽部（ワンコインパーティ）		年間４回、「地域交流室さくら」で会費５００円で、食べて飲んでしゃべってつながる場。地域デビューが目的
一人暮らし高齢者の集い		年間３～４回。地区内の６５歳以上の一人暮らし高齢者の集いの場。お茶、菓子、時に弁当を食しながら、おしゃべりや体操などで楽しむ。
「ふくしだより」の発行		年２回（夏と新年号）発行。地区内全戸及び事業所に配布し、地域の福祉情報を発信。
福祉ネットワーク会議		校区内にある福祉、医療、ＮＰＯ、自治会、小学校・中学校などの機関、団体の参加で地域の福祉活動の情報共有と協働を目指す
「ボランティアさくら」の活動	重点	一人暮らし高齢者や障がいを持つ人などの買い物や電球の交換など、ちょっとした困りごとの支援を行う。有償制も含む
小学校児童・保育園園児との交流		小学校と校区内にある保育園の子どもたちと「昔あそび」などで交流
障がいを持つ人の集い		校区内に住まいの「障がいを持つ人の集い」から交流会などを企画・開催
福祉活動人材の発掘・育成	重点	福祉委員やボランティアへの参加を当会事業参加者、「ふくしだより」などで積極的に呼びかけて活動人材を発掘、育成する
「なかよしクラブ」の立上げ	新規・重点	地区内の住民を対象に、コーラスや折り紙、編み物など趣味活動の自主グループの立上げを促し、つながり・仲間づくりを目指す
小地域での見守り・支え合い活動の推進	新規・重点	自治会や近隣同士でのゴミ出しや買い物支援など軽易な生活支援を行う小地域見守り・支え合い活動の推進。立ち上げ検討委員会の設置
会合・自主活動グループ内のメンバー同士の互助活動	新規・重点	既存の役員会や部会、自主活動グループのメンバー同士の困った時の声掛け・支え合い活動を推進する
４役会・役員会		役員会は毎月第１金曜日の１３時半～１５時半。４役会は毎月役員会の前の月曜日１０時～１２時
部会の開催		役員を中心に「ふくし部会」（毎月第１金曜日１３時半～１５時半）「広報部会」「交流イベント部会」「生き生き健康部会」を開催